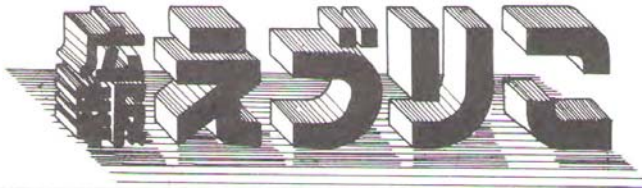
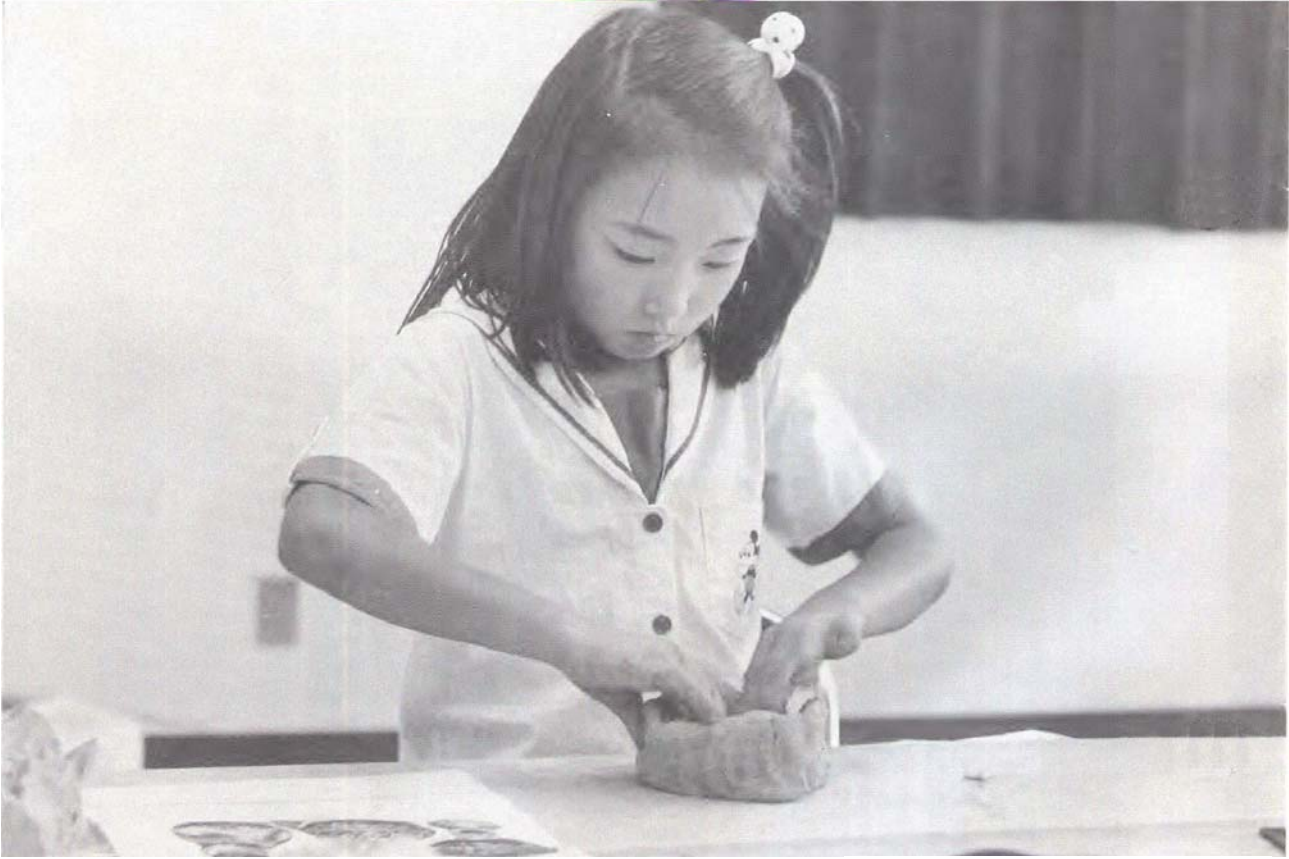


「古代の遺産」を尋ねて



1986年
9月
第409号



広報「えぶりこ」 初回の掲載面表紙

遺産名	ページ	遺産名	ページ
1. 局部磨製石釜	1	13. 猫谷地古墳群の発掘調査①	7
2. 五条丸古墳群の発掘調査	1	14. 猫谷地古墳群の発掘調査②	7
3. 深鉢	2	15. 高杯	8
4. 土偶	2	16. 江釣子村史跡センター	8
5. 石皿と磨石	3	17. 五条丸古墳群の発掘調査	9
6. 蓋	3	18. 合口甕棺	9
7. 独鈷石	4	19. 杯と甕	10
8. 岩偶と腕輪	4	20. 勾玉・ガラス玉	10
9. 蓋	5	21. 轡	11
10. 高杯	5	22. 直刀と蕨手刀	11
11. はそう須恵器	6	23. 薩文土器	12
12. 三箇遺跡の発掘	6	24. 和同開珎	12

「古代の遺産」を尋ねて ①



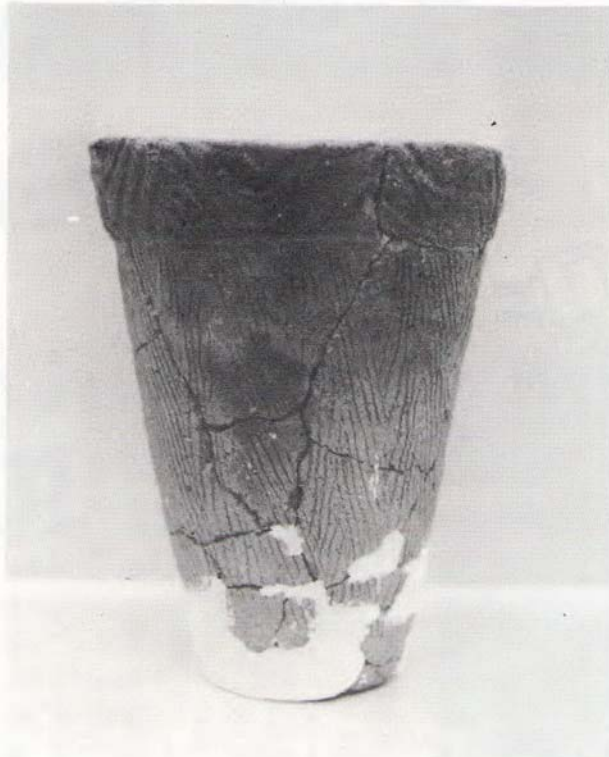
局部磨製石斧（きょくぶませいせきほ）……………持川遺跡出土
この石斧はおよそ1万年前のものと推定され、石を打ちかき、部分的にみがきをかけて作られたものです。このように同じ形をしたものが7本もまとまって発見されたのは、全国的にも珍しいといわれています。
（江釣子村史跡センターに展示）

「古代の遺産」を尋ねて ②



五条丸古墳群の発掘調査……………6月から始まった調査がこのほど終了しました。
発掘場所は、菊池芳子さん宅北側。約1,300年前の古墳の周塹が6カ所で見つかりました。ここからは、ガラス玉が約100個、鉄鏃、馬具（くつわ）などが発見されました。

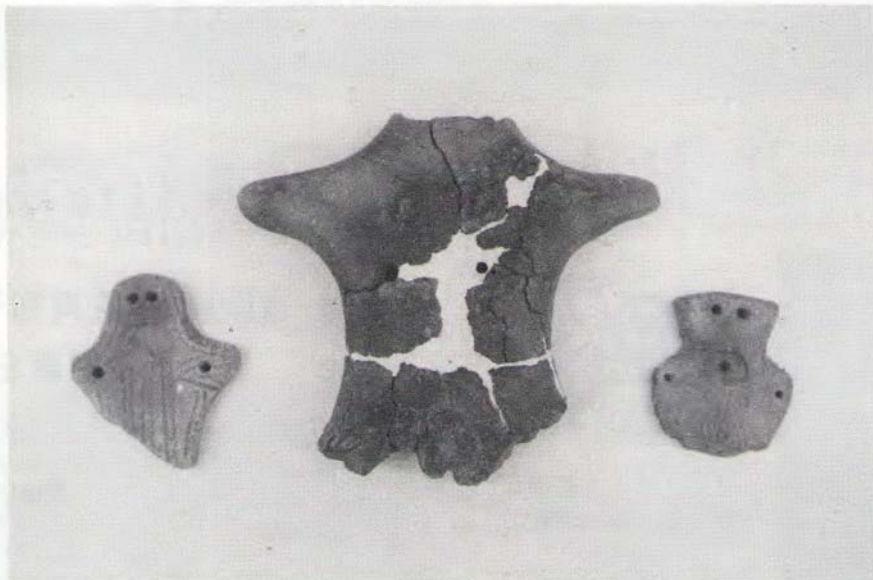
「古代の遺産」を尋ねて ③



深鉢（ふかばち）……鳩岡崎上の台遺跡から出土したこの深鉢は、縄文時代前期末（約五千年前）のもので、表面には、木目状の撚糸文（木の年輪のような文様）が見られます。これは、木に糸をまきつけ、鉢の表面をころがすことでできたものです。鉢の下の方が焼けただれていることから、煮炊きに使われたものと思われまます。

（江釣子村史跡センターに展示）

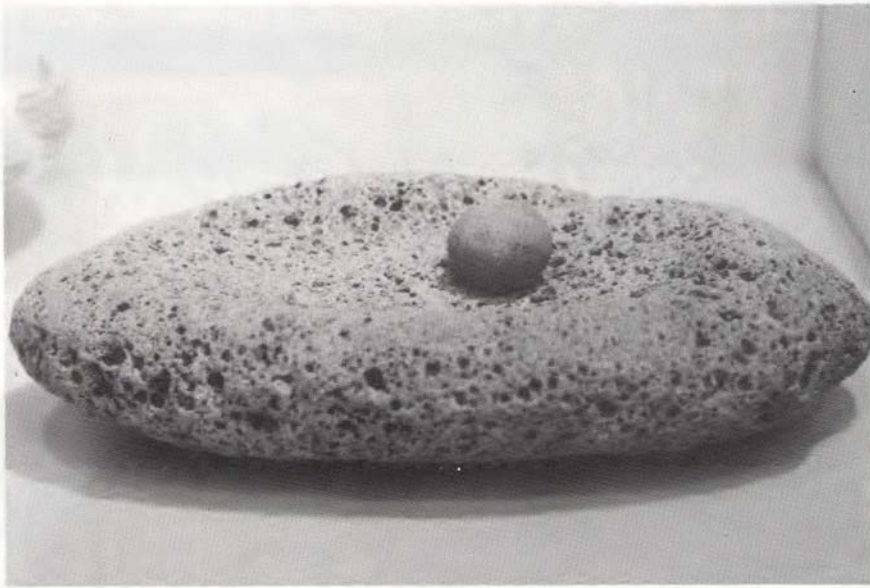
「古代の遺産」を尋ねて ④



土偶（どぐう）……鳩岡崎上の台遺跡出土

これは縄文時代中期（約4,000年前）のもので、いずれも女性の体を表しており、乳首、へそ、ふくらんだ下腹部がわかります。当時は、自然によって生活が大きく左右されていましたが、女性を形どった土偶を身につけ、大切にすることによって、世の中の豊饒（ほうじょう）と平穏を願ったのです。

（江釣子村史跡センターに展示）



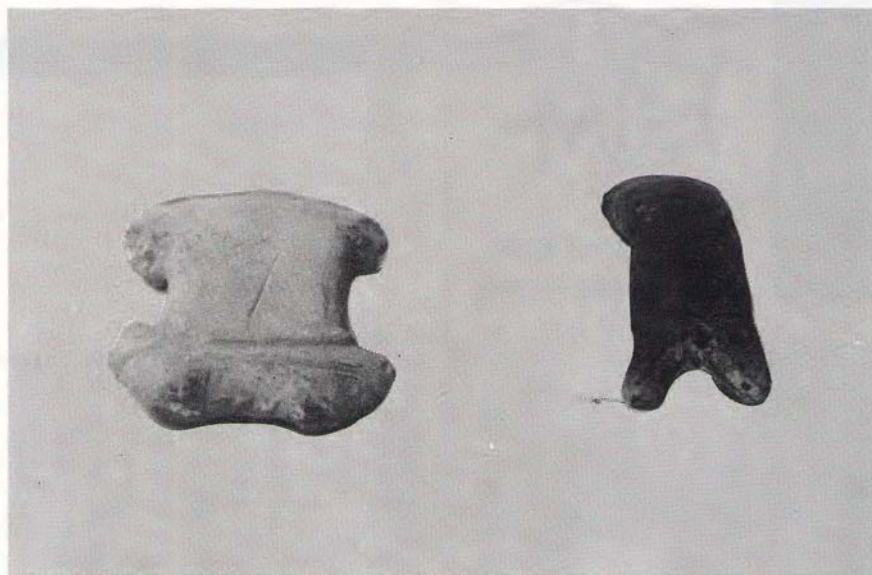
石皿と磨石（いしざらとませぎ）…………… 鳩岡崎上の台遺跡出土
これは、縄文時代中期（約4,500年前）のもので、木の実をくだき、でんぷんを取るために使われたものとみられています。石皿の中央部分がくぼんでいますが、でんぷん粉が外にこぼれないように工夫がなされています。
(江釣子村史跡センターに展示)



蓋（フタ）…………… 本宿遺跡出土
これは、縄文時代後期（約2,300年前）のもので、中央部の4つの穴にひもを通し、ちょうど大きさの合う瓶と一組にして使いました。蓋を発明したのは、この時代であり、その前は木の葉などを瓶の上ののせて、フタのかわりにしていたと思われます。
(史跡センターに展示)



独鈷石（どっこいし）……………本宿遺跡出土
 これは縄文時代後期(約3,000年前)のものです。密教で使われる「独鈷」に似ていることから、この名前がつけられました。この当ても宗教的な行事に使われたのではないかとされています。県内でこのようなものが出土されるのは、極めてまれです。(史跡センターに展示)



岩偶(がんぐう)と腕輪……………蔵屋敷遺跡出土
 これは弥生時代中期(約2,000年位前)のものです。左側の岩偶には中央部に「9」の文字に似た模様が見られます。これが特徴であり、人体のへそを表したものとみられています。右側の腕輪は土製のもので、両端の穴にひもを通して使われたものと考えられています。このような腕輪が発見されるのは極めて珍しいといわれています。(史跡センターに展示)



蓋（ふた）……………蔵屋敷遺跡出土
これは弥生時代中期（約2,000年位前）のもので、穀物を煮炊きするときに蓋として使ったものです。実物をよく見ると煮こぼれた跡が見えます。（史跡センターに展示）



高坏（たかつき）……………蔵屋敷遺跡出土
これは食べ物の盛りつけに使ったものと思われます。足の部分が非常に高く大きく作られており、この足にもていねいな模様がほどこされています。（史跡センターに展示）



須恵器すえき (はそう) 線……………五条丸古墳群出土

これは古墳時代後期(約1,300年前)のもので、特別な儀式のときに酒などを入れる容器として使われたものと推定されます。この須恵器は非常に硬く焼かれています、当時の日本にはこのような技術はありませんでした。この土器は、どこかほかの所から運ばれてきたものと考えられています。



三館遺跡さんかんとの発掘

ここには、戦国時代から近世初期までに大きな屋敷があったと推定されています。今回の調査では、幅6m・高さ2mの土塁と幅5m・深さ2mの堀のあとが発見されました。この規模から想像すると館はかなり大きなものであり、相当力のある人物が住んでいたものと思われます。場所は、鳩岡崎公民館から民家をはさみ100mほど東方です。



猫谷地古墳群の発掘調査 ①

教育委員会では、7月から猫谷地古墳群の発掘調査を行いました。調査面積は約250平方メートルです。調査の結果、二基の古墳が発見されましたが、このうち一基は長方形に土を掘り下げ、長さ30～40センチ大の河原石を三、四段積み上げるなど今までとは違った方法で作られていました。また、この古墳からは副葬品も多く出土しています。

古墳の遺産を求めて

13



猫谷地古墳群の発掘調査 ②

8月には、この場所からまが玉が22個発見されました。このうち1個は琥珀で作られていました。琥珀のまが玉は県内では初めての出土で、全国的にも珍しいものです。これらは1箇所ですべて出土され、1つにつながっていたものと推測されます。また、ここからは多数の石の玉やガラス玉も発見されています。

古墳の遺産を求めて

14



高坏（たかつき）……………五条丸古墳群出土

これは奈良時代初期に作られたものです。口と足の部分に4～5本の平行な線が描かれています。このような模様は北海道で出土される土器に多く見られていることから、この高坏も北海道と何らかの関係があるものと推定されます。また土器全体に格子目状の朱が塗られており、葬儀に使われていたものと考えられます。

古墳の遺産を求めて

15



江釣子村史跡センター

五条丸古墳群内にあるこの建物は、昭和58年に建てられました。ここには古墳群から出土した勾玉・蕨手刀など多くの副葬品をはじめ、村内に所在する旧石器時代から平安時代までの遺跡から出土した遺物を時代順に展示しています。開館時間は午前9時から午後4時まで。毎週月曜日と年末年始は休みです。一度見学してみてもいいですか。

古墳の遺産を求めて

16

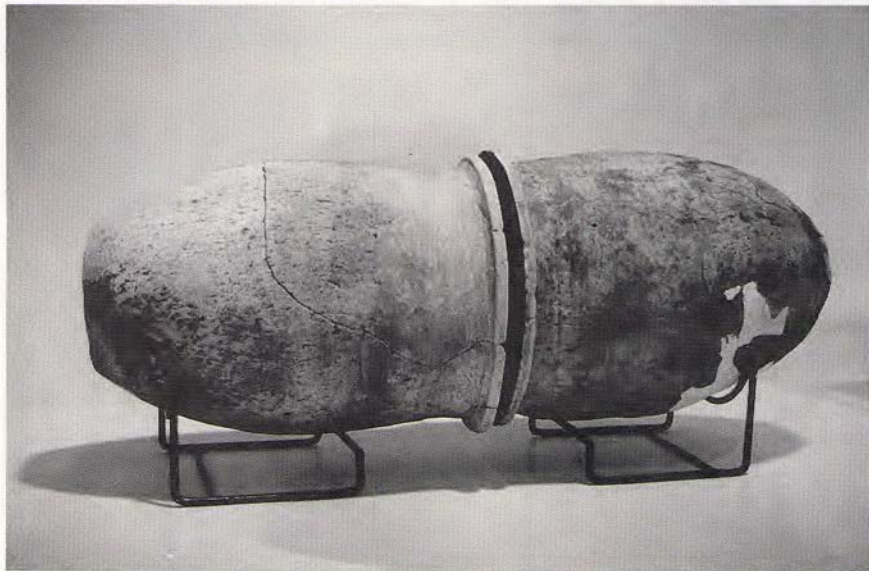


五条丸古墳の発掘調査

昨年9月から11月にかけて、五条丸古墳の発掘調査が行われました。場所は、民俗資料館西側の水田400㎡です。ここからは古墳の周溝が五つみつかりましたが、それぞれ交差しないように作っており、古い墓を壊さないように新しい墓が作られていることがわかりました。また、この割合からすると、この周辺には数百の古墳が存在していた可能性があります。

古墳の遺産を求めて

17



あいくちかめかん
合口甕棺

.....本宿羽場遺跡出土

これは平安時代（約1000年位前）のもので、大きな甕の口を2つに合わせた中に幼児や大人の骨だけをおさめるために使われました。同じようなものは、県内でも十数例発見されています。

（史跡センターに展示中）

古墳の遺産を求めて

18



つきかめ
坏と甕

.....塚遺跡出土

これは平安時代後期（約1,000年位前）の人々が食器として使用したものです。この頃になると、食器を製造することを職業とする者が現れ、同じものを大量に生産することができるようになりました。しかし、その分、粗雑な物も出回るようになりました。

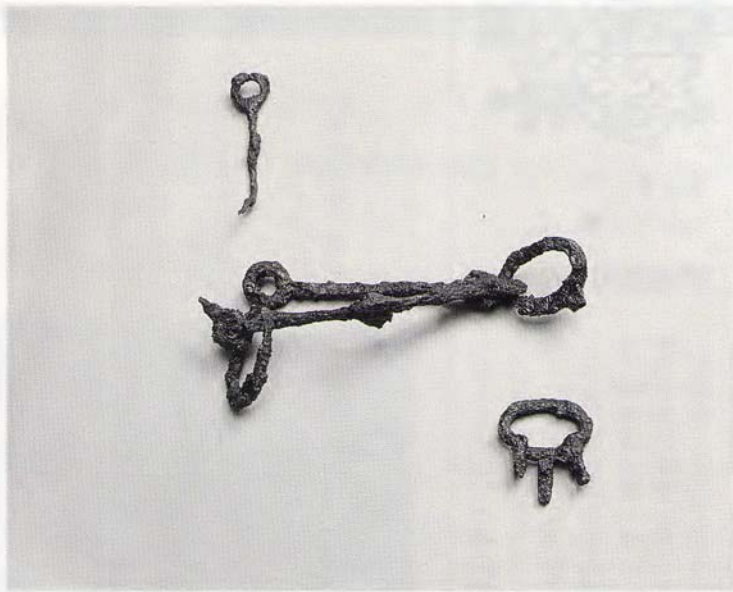


まがたま

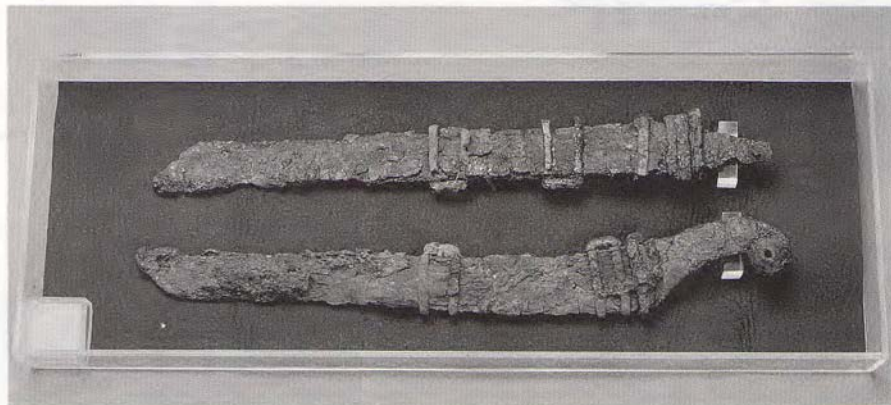
勾玉・ガラス玉.....五条丸古墳群出土

古墳の中に副葬されていた首飾りです。「C」字形をしているのが、めいろう瑪璃で作られた勾玉で、小さいビーズ玉のようなものがガラスで作られた小玉です。1個の玉を作るにも紐ひもを通す穴をあけたり、きれいに磨いたりしなければならぬので、大へんな努力が必要でした。

（江釣子村史跡センターに展示）



くつわ
轡 五条丸古墳群出土
馬具のなかでも、特に、轡は馬をあやつるのに重要な部分です。いまから1,300年前には、すでに乗馬として利用されていたことがわかります。これ程形がよく残っているのはめずらしいことです。
(江釣子村史跡センターに展示)



ちくとう せうていとう
直刀と蕨手刀 五条丸古墳群出土
直刀(上)、蕨手刀(下)とも権力の象徴として貴重なものでありました。古墳の中に副葬されていた刀で、柄の先端が山菜の蕨の様になっているので蕨手刀と名付けられています。おもに、東北地方の古墳から発見されています。
二振とも鞘金具も良く残っています。(江釣子村史跡センターに展示)

古墳の遺産を求めて 23

擦文土器

五条丸古墳群出土

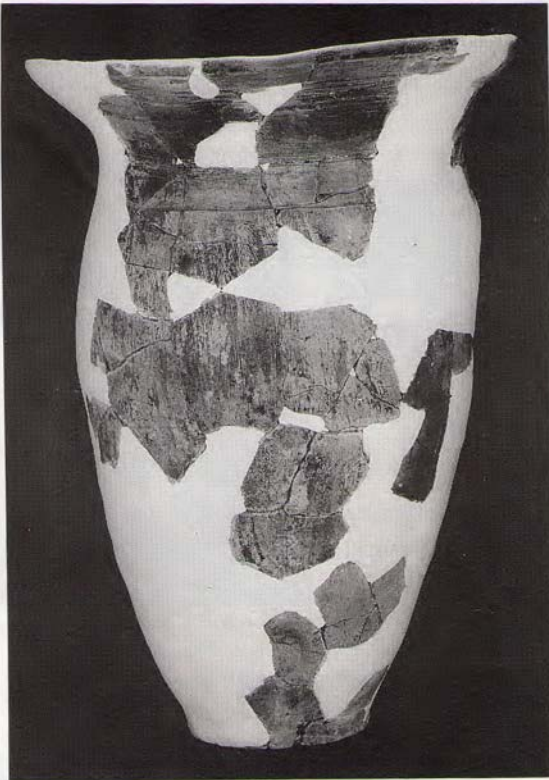
昨年しゅうごうの五条丸古墳群発掘調査で古墳の周濠しゅうごうから出土した甕かめです。

頸くびから口にかけて日本の横線がひかれているのが特徴です。

この様な形の土器は、奈良時代（八世紀前半頃）に北海道道南地方で盛んに作られたもので擦文土器といわれています。

その土器が五条丸古墳群から出土していることから、当時の人々の中に北方から移ってきた人もいたことがわかります。

（江釣子村史跡センターに展示）



古墳の遺産を求めて 24



猫谷地 CE 681 庄

和同開珎

猫谷地古墳群内の竪穴住居跡から発見されました。「和同開珎」は今から1280年前に日本で初めてつくられたお金です。当時のお金は、今のようにももの売買に使うというよりも、持っている人の権威の象徴としての意味が強かったようです。奈良の都でつくられたお金が遠く離れたこの地で発見されたことにより、都とのつながりが、予想以上に強かったことがうかがわれます。

※このシリーズは今回で終わりとなります。編集にあたっては、村教育委員会の高橋文明氏より全面的に協力をいただきました。9月号より新シリーズが始まります。ご期待ください。